

令和4年度 第1回奈良市地域包括支援センター運営協議会の意見の概要	
開催日時	令和4年5月19日（木）午後2時から午後3時30分まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第601会議室
意見等を求める内容等	1 地域包括支援センター事業評価実施要領の改正について 2 その他
参加者	出席者 11人・事務局 7人
開催形態	公開（傍聴人 1人）
担当課	福祉部福祉政策課
議事概要	
<p>○ 議事録署名人について 座長が議事録署名人2名を指名した。</p> <p>○事務局による説明の後、出席者に意見等を求めた。 【議題1】 地域包括支援センター事業評価実施要領の改正について ・市から、要領改正の趣旨目的及び目標設定シート・実績評価シートの様式変更内容を説明した。</p>	
出席者の意見等	
<p>包括の役割は、住民一人一人の相談にゆっくりと寄り添うこと。住民の心やすらぐ地域包括支援センター（以下「包括」という。）であってほしい。日々の対応、報告書類だけでも大変だというのにこれ以上の負担をかけるのは心苦しい。書類を簡潔にして、基幹型包括支援センター（以下「基幹型」という。）が協力して各包括を助けてやってほしい。</p> <p>現場としては書類に追われて勘弁してほしいというのが現状だろう。基幹型がそれぞれの包括を訪問し、目標や実施項目を一緒に作ったらいい。基幹型は見張り役ではなく、ボトムアップするために一緒にやるという機能を果たしてほしい。</p> <p>目標設定シートの項目1、2、3が必須項目で、4と5が地域の特性に応じて任意記入項目となっているが、必須項目がなぜこの3つになったのかを聞きたい。</p>	

厚生労働省が予防と共生という言葉をよく使うが、予防という点で、介護予防、共生という点で認知症施策、その中間という点で自立支援・重度化防止を選択した。市としては、この3点を包括に意識してやっていただきたいという考え。

私はケアマネジャーをしているので、包括的ケアマネジメント支援業務のところは気になっている。ケアマネジメントに特化した技術や知識の向上のための研修があれば、地域のケアマネの力量も上がると思っている。そのあたりのバックアップが施策としてあれば包括としても助かるのではないかと思う。

ケアマネジャーのレベルアップも大事なことだ。4, 5番目の項目に書く内容をもう少し例示してあげるといいのではないか。

福祉施設や福祉法人も自己評価をしたり、外部評価の意見、内部からの意見を受けてどう解決するか、日々努力しているところ。

包括は、我々福祉施設にとってなくてはならない存在。ずっと存在する問題のほかに、社会的背景から出てくる問題もたくさんある。それらの問題に包括ごとにどうかかわったかを積み重ねていくことが大事で、それで新しいニーズも見えてくる。今は、高齢者のことばかり言っているが、私はもう「成人福祉」だと思っている。40代以上の方でも問題を抱えているが制度に乗らないだけで、内容は同じこと。広い視野で見えていかないと救えない時代になっている。

問題の構造は高齢者も障害者も関係ないし、重なっている。本当の意味での地域包括ケアをどうつくっていくかを考えるにあたって、各包括がよりどころになるのは間違いない。

地域のなかで包括がどう認識されているか、という点では、市全体のことはわからないが、私の住む地域での包括支援センターはよく頑張ってくれている。今回の資料を読んで、奈良市としては包括を統括していくなかで評価というのは必要なことなんだろうな、と感じる。皆がおっしゃる包括の負担が大きいのではないかという意見もわかるし、評価も大事なことだと思う。

包括で相談を受けて対応してくださっている案件で、地域にご相談もいただいているが、地域にはその情報が回ってこないのが地域でケアできないことがある。プライバシーの問題があるのだとは思いますが地域でケアできないのも問題があるのではないかと思う。

民生委員にとっても包括はなくてはならない存在。見守っている方からの相談に私自身が解決できないような場合、包括の方に相談に乗ってもらっている。普段から民生委員の会合、自治連合会の会合にも参加していただいております、ただでさえ少ない人数でやっておられるところに、(今回の評価が) 過剰な負担とならないようにしてほしい。評価するためのシート作成は無駄な話。実質的な活動をしているところをみてもらいたいと思う。

まさに人材育成の部分が大きい。医療も介護も福祉も同じだが、文字でちゃんと他人に伝えられる能力が重要。文書で伝えられる能力と（医療・介護の）技術の能力は比例しないところが悩ましい。包括の客観的評価を目指しているのならばこの難易度も客観的指標でなければならないと思うが、その記載がないのが気になる。

評価というのは本当に難しい。実際にやっていただいてもそれが形に表れているものもあれば、そうでないものもあるだろう。

皆、それぞれの立場で頑張ってくれているが、包括には地域の会合に顔を出していただいて、その活動が私たち一般市民にも見えるような形になってくれたらありがたい。

評価について、13 包括によって地域特性がある。点数の良し悪しだけでその包括の優劣によようなものをつけたら困ると思う。自己評価でやっていって、基幹型の人と現場で一緒に作成していってくれることが非常に大事。評価のとき、点数が悪いから悪い（包括）というような判断をしたらだめだと思う。

歯科の場合、節目検診が 10 年ごと、50 歳、60 歳、70 歳というように 10 年間で 1 回だけ無料検診してもらっているが、その期間をもっと短くするような働きかけをしていくようにしている。結果として早期発見できれば医療費の削減につながると考える。

この実績評価、どうしても ABC 判定をつけなければならないでしょうか。包括ごとに能力にばらつきがあると言いながらも、みんな時間もないなかでそれなりにやってくさっている。絶対評価だとわかっていても、職員のモチベーションを下げないか。包括はいろんな相談に対応し、いろんなことをやってくさっている。その労力はすごく大変で、本当はご苦労様と言いたいのに、評価するなんて。評価より応援団でいたい。

包括の評価、第一次、第二次とあるのはわかりましたが、本当はもう一つあるのではないか。住民やサービスを受けている方々。この方たちからの評価がいるのではないかという疑問があったのです。サービスを受けている人からの評価というのは行政ではなかなかされない。

社会福祉協議会では、身近に 8050 のような案件があり、いろんな人が参加して支援しているがそこに包括、社協、民生委員、自治会の方などが参加してすぐに議論できる場をモデルで作っているところ。包括には必ず入ってもらっている。そういう活動に継続的に参加してくれる包括を評価したいし、生活支援コーディネーターが市民の声をまとめて包括に伝えることはできていると思っている。

私の経験から、一次評価者が評価した時にコメントを書いてくだされば、二次評価者が評価する際に参考になるのではないかと思う。

本日の皆さんの意見を伺って、基幹型が各包括をどう支援していくか、各包括と基幹型とのやり取りの中で評価すべき中身が見えてくると思った。いわば包括を応援する基幹型と一緒にあって包括が自己評価をする。それを持ち寄って我々が評価させていただくことになるので、できるだけ現場の方を励ましながらいい方向に進めていけたらと思う。